

極低出生体重児における慢性腎臓病発症のリスクファクターの検討

—全国疫学調査—

医学情報の研究利用についてのお願い

慢性腎臓病は後に末期腎不全に陥ってしまった場合、一生にわたる透析あるいは複数回の腎移植などの治療が必要となるため、小児期の進行抑制が特に重要と考えられており、世界中で研究がおこなわれています。そして早期産や低出生体重が慢性腎臓病発症のリスクファクターと言われていますが、その実態解明、真の原因、そして予防法や治療法の確立は現在のところほとんど進んでおりません。

我々はこれまでに全国の病院の先生方患者様にお願いして、「小児の腎正常値研究」や「小児の腎機能評価のための糸球体濾過量推算式の確立研究」などを行ってきました。それについては、日本人小児の基準値として全国で役立つています。そのデータを利用して1500未満で出生された患者様たちが3歳以上になった時に腎機能はどうであるか、また妊娠、出産、およびその後の経過との関連はどうかを、新たにデータを取ることなく診療録から既存のデータを後ろ向きに収集し検討したいと考えました。この研究の調査期間は2017年11月から2018年12月です。

この研究は、過去の診療記録を用いて行われますので、該当する方の現在・未来の診療内容には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人を直ちに特定できる情報とは切り離し無関係な識別番号を付した状態で収集させていただき、その保護には十分配慮いたします。当然ながら、学会や論文などによる結果発表に際しましては、個人の特定が可能な情報はすべて削除されます。ただし、その後の調査のために、各施設内では症例対応表により識別番号と個人情報に対応付けされる場合があるが、その場合も各施設外に個人情報が出ることはない。

この研究に関してご不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には、以下にご連絡いただきたいと思います。なお、本研究は日本赤十字豊田看護大学の倫理委員会の承認を得ており、各施設の施設長（院長）の承諾を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって診療・治療において不利益をこうむることはありませんので、ご安心ください。

研究責任者

「一宮医療療育センター（前・日本赤十字豊田看護大学）」 上村 治

TEL: 0565-36-5111

「

」

TEL: - -